

イデックスオイルレポート ~For a month~

2024年4月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

- 第1週、3/1のWTI原油は、先週比3.48ドル高の79.97ドルとなりました。2月の米経済指標は、サプライ管理協会(ISM)の製造業購買担当者景況指数(PMI)、ミシガン大の消費者景況感指数(確報値)がいずれも市場予想を下回る低調な内容。これを受け、景気下支えに向けた早期利下げへの期待が再燃し、相場はドル安を追い風に一気に80ドルの台に乗せた。
- 第2週、3/8のWTI原油は、先週比1.96ドル安の78.01ドルとなりました。米国とカナダを結ぶ送油管「キーストーン・パイプライン」が稼働を停止していると伝わり、この日はオーバーナイトで一時的に80ドル目前に上伸。しかし、操業再開の報に伴って買いが細り、朝方にはマイナス圏に沈んだ。
- 第3週、3/15のWTI原油は、先週比3.03ドル高の81.04ドルとなりました。国際エネルギー機関(IEA)は14日付の最新レポートで2024年の世界石油需要の伸び予想を従来予想から上方修正。一方で24年の石油需給は、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」による減産延長で若干の供給不足になると予想した。これを受けて需給引き締め観測が強まり、前日は中心限月の清算値ベースで約4カ月半ぶりの高水準となった。
- 第4週、3/22のWTI原油は、先週比0.41ドル安の80.63ドルとなりました。イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘休止交渉では、同国交渉団を率いる対外情報機関モサドのバルネア長官が22日、仲介国カタールを再訪問。中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー供給不安が幾分和らぎ、原油は売りが優勢となった。
- 第5週、3/28のWTI原油は、先週比2.54ドル高の83.17ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が6月の閣僚級会合まで現行の生産方針を据え置く可能性が高いとの報を背景に、供給が引き締まるとの見方が台頭したことも、引き続き相場の押し上げに寄与した。

3月平均	WTI原油	80.41ドル	前月比	3.80ドル	為替 1ドル	150.67円	前月差	0.17円
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
3/1~3/6	21.6	-1.5	-1.5
3/7~3/13	21.7	±0	±0
3/14~3/20	21.1	-0.5	-0.5
3/21~3/27	21.2	+1.0	+1.0
3/28~3/31	23.3	+3.0	+3.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2023年10-12月C重油決定価格	104,660	108,340	(104,660(メニュー)+3,680(プレミアム))
2024年1-3月C重油仮価格	93,270	95,630	93,270(メニュー)+2,360(プレミアム)	
2024年1-3月C重油決定価格	95,490	98,020	95,490(メニュー)+2,530(プレミアム)	
決定価格10-12月比	-9,170	-10,320		

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油	
	2023年10-12月決定価格	113,740	未決着	
2024年1-3月仮価格	101,030			
2024年1-3月決定価格	103,420	106,500		
決定価格10-12月比	-10,320			

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	24/2	9桁速報	77,879	83.58	148.14	230
	24/3	最終予測	78,400	82.98	150.20	521
	24/4	展望	81,688	87.75	148.00	3,288
	24/5	展望	79,918	87.62	145.00	-1,770

【次世代エネルギー】〈JERAやINPEX、米国でアンモニア生産 発電燃料〉

日本の火力発電最大手JERAと石油会社INPEXは米国でアンモニアの生産事業に参加する。アンモニアは燃やしても二酸化炭素が出ない次世代エネルギーとして期待され、日本は発電燃料に使う。米国がアンモニア生産国として注目される中、現地での脱炭素ビジネスに積極的に参画する考えだ。JERAは2023年に肥料用のアンモニア製造大手、米CFIインダストリーズ(CFI)などと覚書を締結している。共同出資での工場新設などを検討しており、1カ所あたりの事業費が数千億円のアンモニア生産事業を目指している。同事業に「10%超は出資する」とした。JERAは愛知県の火力発電所で進めているアンモニアの混焼を関東の石炭火力発電にも広げ、30年に年200万トンのアンモニアを海外から調達する計画だ。生産事業に参加してサプライチェーンのノウハウを獲得する。年産100万トンを目指す。うち年50万トンをJERAが引き取る方向だ。米国南部がプラントの建設候補地で、1年以内に設計・工事を始める考え。JERAは米国で社員の採用を増やし、米国法人の陣容は1年後に3割増の250人程度になる見通し。INPEXもヒューストンで年110万トンのアンモニア製造を27年までに始める考え。事業費は数千億円。欧米企業と組み、INPEXは最大の出資比率を確保する。24年半ばにプラントの基本設計に着手する。米国でアンモニア生産の計画が相次ぐ背景には、米国政府の「インフレ抑制法(IRA)」などで水素生産や二酸化炭素の回収への支援が手厚くなったことがある。日本や韓国などが石炭火力発電の脱炭素に向けてクリーンなアンモニアの輸入を促進している。東アジアで商機が広がっていることも追い風となっている。

出典: 日経電子版 https://www.nikkei.com/nkd/industry/article/?DisplayType=1&n_m_code=024&ng=DGXZQOGN204YJ0Q4A320C200000

【4月価格変動要因】

- 需要:
 - ・FOMCのDotsでは改めて年3回の利下げ見通しが示された一方、2025年の金利見通しが12月から引き上げられた。足元の物価動向は米2月PPI、米2月PCEデフレーター、米2月CPIいずれも市場予想を上回る動きに。サービス物価の減速一服に加え、コア財物価の下落幅縮小も再加速の一因となっており、インフレ長期化への警戒感が金利引き下げ観測を後退させている。また、米ボルティモアの橋が事故により崩落。同港は米国で有数の輸出入拠点となっており、物流の停滞によるコストプッシュ的なインフレ圧力の強まりが警戒されている。
 - 一方、日本では17年ぶりとなる政策金利引き上げが行われ、マイナス金利が解除、金融政策は転換点を迎えた。
 - ・米国景気は製造業の先行き景況感が弱いものの、総じて堅調を維持。1月実質個人消費は前月比小幅減少となりましたが、数か月を均してみれば依然高水準で推移。好調な企業収益を背景とした配当増や物価スライドによる年金受取額の増加などもあり、財産所得を中心に名目個人消費は強い伸びを見せている。
- 供給:
 - ・ロシアの製油所に対するウクライナ無人機の攻撃や、同じくロシアにおける大規模なテロ事件の勃発などが地政学リスクを意識させ、原油相場の騰勢を支えている。OPECの協調減産の維持もあり、原油需給は当初想定よりもタイトニング。IEAが発表した月報では2024年の需給見通しについて従来供給過剰としていたものを需要超に転換。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	93	89
Average	88	84
Low	83	79

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	96	92
Average	89	85
Low	82	78

日付	国	4月経済指標カレンダー	日付	国	4月経済指標カレンダー
1	日本	1-3月期日銀短観・四半期大企業製造業業況判断	17	ユーロ	3月消費者物価指数(HICP、改定値)
1	米国	3月ISM製造業景況指数	19	日本	3月全国消費者物価指数(CPI)
3	ユーロ	3月消費者物価指数(HICP、速報値)	23	米国	3月新築住宅販売件数
3	米国	3月ADP雇用統計	25	米国	1-3月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
5	米国	3月非農業部門雇用者数変化	26	ユーロ	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
5	米国	3月失業率	26	米国	日銀展望レポート
5	米国	3月平均時給	26	米国	植田和男日銀総裁、定例記者会見
10	米国	3月消費者物価指数	31	米国	3月個人消費支出
10	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	31	ユーロ	4月消費者物価指数(HICP、速報値)
11	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	31	米国	1-3月期四半期雇用コスト指数
11	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見			
15	米国	3月小売売上高			